

平成 30 年度第 2 回大船渡市総合戦略市民会議 会議要旨

この資料は、10 月 23 日(火)に開催した平成 30 年度第 2 回大船渡市総合戦略市民会議における委員からの意見や提言等を取りまとめたものです。

第 2 回市民会議は、総合戦略の具体的な展開にあたり、市として、さらに意見・提言をいただきたい「起業や企業の事業拡大といった新しいチャレンジへ向けた支援のあり方について(※1)」、「公共交通ネットワークの構築について(※2)」の 2 つのテーマについて、グループワークにより議論いただきました。

委員は、2 つのグループに分かれ、テーマを所管する市の担当職員から情報提供と意見・提言をいただきたい事項の説明を受けた後「成果を上げるために取り組むこと」「市民に何ができるのか」等の視点で議論を深めました。

※1：「起業や企業の事業拡大といった新しいチャレンジへ向けた支援のあり方について※1」関連プロジェクト No.123 出る杭育てるプロジェクト(起業家輩出プロジェクト)

※2：「結婚支援に対する各種取組の改善(※2)」関連プロジェクト No.413 市街地再生と連動した公共交通ネットワーク再構築プロジェクト

- 日 時 平成 30 年 10 月 23 日(火) 午後 3 時から午後 5 時 10 分
- 場 所 シーパル大船渡 2 階会議室
- 出席委員 17 名(中野圭副会長、熊谷孝嘉委員、佐藤光男委員、小野隆幸氏(荒木健彦委員代理)、滑川淳一氏(菊池透委員代理)、鎌田由也委員、齊藤美智代委員、兼平太地委員、長澤敏之委員、松村敦子委員、志田敬委員、大畑正彦委員、山崎高範委員、鷺田あかね委員、熊谷あけみ委員、今野義郎委員、中井孝委員)

◎テーマ A「起業や企業の事業拡大といった新しいチャレンジへ向けた支援のあり方」

【市からの情報提供内容】

<現状>

- ・総人口が減少を続けている
- ・新規高卒者は 600 人を下回っており、数年後には 400 人台に減少することが見込まれる
- ・就職希望者は新規高卒者の約 25% (うち管内就職割合は 50%程度)
- ・管内就職を除く進学生徒や管外就職者は、新規高卒者の 85%を超える
- ・県内新規学卒者の 3 年以内の離職は約 4 割

<目標>

- ・就職希望者の地元就職率を向上させる
- ・進学者、管外就職者の U ターンを増加させる
- ・地元就職者の定着率を向上させる

<課題>

- ・若者の地元就職及び定着化の促進

<取組>

- ・地域産業人材の育成強化支援
 - 気仙高等職業訓練校による職業訓練の実施
 - ジョブカフェ気仙によるセミナー等の開催
- ・中学生に対する市内事業所や仕事の紹介
 - キャリアチャレンジデイの実施
 - 市内中学校と企業との職場体験のマッチング支援
- ・新規学卒者等就職奨励金制度の創設

<取組成果を踏まえた検討事項>

- ・就職希望者の地元就職率を向上させる取組
- ・進学者、管外就職者の U ターンを増加させる取組
- ・地元就職者の定着率を向上させる取組

【各委員からの意見・提言】

○No.1 大船渡で、新たな産業・事業・チャレンジを興してもらうために、行政や産業関連団体が取り組むべきこと（又は、より力を入れたほうがいいこと）は何か？

- ・産業の良い面を広く周知する
- ・起業したい人やそれを支援できる人が登録できるサイト
- ・起業のためのハンドブックを作成
- ・起業セミナー（継続）の定期的な開催
- ・起業家を育てるための勉強会（研修会）の実施
- ・成功事例を聞く機会を設ける
- ・若者向けのチャレンジショップ
- ・I L C 誘致→事業者へのメリットの周知
- ・海外に視野を広げる
- ・インフラ整備
- ・飲食店等とのコラボ
- ・大船渡市の強み（海、港湾、セメント、水産業）をいかす
- ・優良コンテンツ（内陸の企業や工場、世界遺産）との関わりを持つ
- ・被災跡地の有効活用
- ・外国人技能実習生の活躍の場の提供
- ・今までにない企画の実施（大船渡でしかできないこと）
- ・起業・事業拡大のための補助
- ・生産者の意見を吸い上げられる企業を増やす
- ・販路確保のための支援
- ・行政の業務を民間に委託
- ・ビジネスモデル開示の仕組み作り
- ・ネットワークやグループ等への支援
- ・一次産業の流通が整っていることを生かす
- ・地元企業（同業種、他業種間）の情報交換

○No.2 「出る杭」を生み出し、育てるために、市民は、このプロジェクトにどう関わっていくことが望ましいか？

- ・市民ニーズの把握（アンケート実施・ミーティングなど）
- ・起業家が何を求めているかを把握する
- ・起業家の P R（行政が起業を応援していることを市民に P R する）
- ・大船渡市を離れた若者を呼び戻すため、起業のための施設提供等の基盤整備・環境作り
- ・中・高生からやってみたいことのアイディアを出してもらう
- ・大船渡市にあったら良いなと思うものについて意見を出し合う
- ・出る杭を育てる風土をつくる（市民の意識改革）
- ・多種多様な人を受け入れる
- ・失敗に寛容な環境にする
- ・起業した企業の利益を配当する仕組みづくり（市民ファンド）
- ・起業家を育てるシステムの整備
- ・企業を支援する基金の創設

◎テーマ B「公共交通ネットワークの構築」

【市からの情報提供内容】

＜現状＞

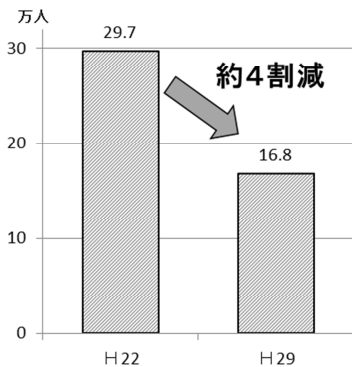
- ・人口減少、少子高齢化
- ・モータリゼーション（車社会化）の進行

＜目標＞

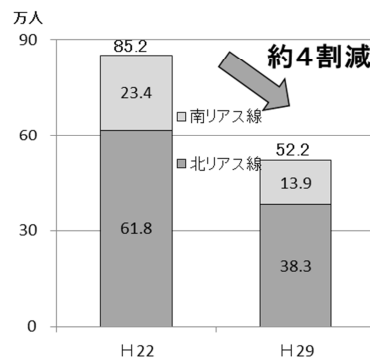
- ・交通弱者や買物弱者を減らし、いつでも出かけられる環境を整える。

＜課題＞

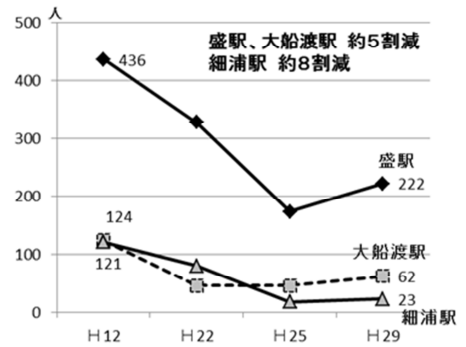
- ① 鉄道（BRT）等の利用者の減少
→ 減収により公共交通が維持できなくなる



市内を運行する路線バスの輸送人員
(高速バスや長距離バスは除く)



三陸鉄道の乗車人員



JR大船渡線の駅別 1日平均乗車人員

- ② 震災後における商業施設や住宅等のまちの変化に伴う地域公共交通の確保
- ③ 高齢者（自動車免許不保持・返納者含む）の増加に伴う地域公共交通の充実
- ④ 交通空白地域・交通不便地域など交通環境における地域間格差

＜今後の方向性＞

- ① 乗り継ぎを意識した、わかりやすく・見やすいバスマップや時刻表の作成
- ② 震災後の被災地特例終了を見据えた、利用しやすい路線バスのルート変更について、交通事業者とともに検討
- ③ 通院や買い物弱者が利用しやすいルート・時間の見直しを交通事業者と調整
- ④ デマンド交通・タクシチケット等実証実験の効果検証を図りながら、新たな地区・交通モードの検討

＜意見交換テーマ＞

- ① わかりやすく・見やすい公共交通マップ
- ② バス路線の再編
人口減少が進む中、限られた財源、限られた車両・ドライバーで、みんなが利用しやすいバスとは？

【各委員からの意見・提言】

- ① 「わかりやすく・見やすい公共交通マップ（公共交通ガイドマップ(案)）について」
 - ・誰に向けたマップなのかが分からない（観光客・市民等）
→ 高齢者等対象者別であった方が良い
 - ・普段利用しない人はバス停自体がどこにあるのかが分からない
 - ・表示内容をもっと簡略して見やすくした方が良い
 - ・通学・通院以外の目的（買物、観光）のマップがあった方が良い
 - ・登校時の時刻表だけでなく、下校時の時刻表も加えてはどうか
 - ・高校生向けのマップは必要か（現在、通学手段は親による送迎が多い）
 - ・病院用マップは個人病院も表示してはどうか

- ・目的地を表示したマップを作成した方が良い
- ・運賃も表示してはどうか
- ・紙ではなく web であった方が良い（紙の大きいマップだと不便）

② バス路線の再編

「人口減少が進む中、限られた財源、限られた車両・ドライバーで、みんなが利用しやすいバスとは？」

- ・市街地から離れた地域を確実に通るコミュニティバスの運行（交通弱者対策）
- ・商業施設と連携した買物弱者対策（バスを乗車した場合に割引になる等）
- ・銀行・病院・買物する場所をつなぐ
- ・環状路線（循環バス）があれば良い
- ・循環バスと市街地から離れた地域を通るバスを結ぶ
- ・中心市街地から離れた地域に住む人は乗り合いやデマンドタクシーを利用する
- ・高台移転した人が乗りやすい路線
- ・どこでも乗り降りできるバス
- ・高齢者が乗りやすい（バス停まで行く負担を減らす、ノンステップバス）
- ・デマンド交通は曜日を決めて運行
- ・バスの小型化
- ・スクールバスの空き時間での利用
- ・中学校統合による通学用バスの利用（子供だけでなく一般の方も利用可能にする）
- ・時間帯によって対象者を絞って運行（朝夕は高校生や県立病院への通院、日中は買い物客や個人病院に通院する人等）
- ・ふるさと納税の活用（財源について）
- ・利用したい人を対象としたアンケートの実施
- ・子ども・高齢者にとって料金の負担は大きい
- ・料金を安くする（高いから乗らない）
- ・ワンコインで乗れるバス
- ・JR とバスを乗り継ぐ人への割引等のサービス
- ・ドアトゥドアの取組
- ・移動をサポートする民間事業者への支援や新規参入者への支援
- ・飲食店の時間に合わせた運行（最終便等）

○まとめ

① 「わかりやすく・見やすい公共交通マップ（公共交通ガイドマップ(案)）について」

- ・誰に向けたマップなのか（観光客、病院への通院、高齢者等対象者を明確にした方が良い）
- ・どういう対象者がよいのか
→高齢者、買物弱者を対象としたマップ
- ・大船渡病院への行き方だけではなく、個人病院への行き方が分かるマップがよいのではないか
- ・対象者を整理したマップがよいのではないか

② バス路線の再編

「人口減少が進む中、限られた財源、限られた車両・ドライバーで、みんなが利用しやすいバスとは？」

- ・大船渡市は一本道の路線のバスが殆どで、循環バスがないので、循環バスがあるとよいのではないか。
- ・料金が高いので、ワンコインで乗れるバスがあればよいのではないか。
- ・銀行、病院への通院、買物する場所をつなぐ循環バスがあれば利便性があるので、乗る人も増えるのではないか。
- ・家の玄関から目的地までドアトゥドアで、送迎するバスがあればよいのではないか。

平成 30 年度第 2 回大船渡市総合戦略市民会議 会議要旨

- ・スクールバスで朝と夕方以外の日中、空き時間の利用もよいのではないか。
- ・高台移転の場所や公営住宅等、市民の住まいが色々な所にできた。日頃市町でもデマンドバスを運行しているが、平成 32 年で国の予算もなくなるそうなので、その後をどうするかについて市の方でも工夫しているので、民間も含め皆で考えて、公共交通ネットワーク路線が使いやすい路線になればよい。